

拾 ぶ

布宮慈子<sup>やすこ</sup>

ブレーキを踏みて止まれば小さきがわれを見てゐる二つのまなこ  
山越えの道をゆくとき目が合ひて軽きいのちを拾ひあげたり

この猫とここで会つたが百年目 いのちはかなくなりしひと過<sup>よぎ</sup>る  
一つだけ開いてゐし病院ニヤアと鳴くこの仔に水を水をください

いいことをしたわねと言ふ婦人あれば動物病院にわが息ととのふ

前足は折れていません咬まれたのでせう獣医師はレントゲン見つつ  
腫れてゐる前足なにに咬まれしか山ん中の生き物おそろし

長き尾をたてて仔猫は付き来たり部屋から部屋へ尻尾はアンテナ  
拾ひ猫もらはれゆけば足元の涼しくなりて二夜かがやく

新しき名前もらひて小さきは広き野ひろき家にあそぶも